

# 令和7管理年度以降のくろまぐろの 漁獲可能量の配分の考え方

## 令和7管理年度以降の「配分の考え方」(令和6年12月とりまとめ)

### (令和7管理年度以降の配分の基本的考え方)(抜粋)

令和7管理年度以降の配分に当たっては引き続き経営の依存度を反映するものとして、まず過去のクロマグロの漁獲実績を基本とするとともに、小型魚10%増枠及び大型魚50%増枠がWCPFC北小委員会において合意されたことを受け、「令和4管理年度以降のくろまぐろの漁獲可能量の配分の考え方について」の7.(3)の「増枠時の対応」の考え方に立ち、過去の漁獲実績及び各漁業の漁獲が親魚資源に与える影響の度合いを考慮しつつ、放流等の混獲回避を行うなど漁獲枠管理の負担の大きい漁業者や獲り控えた都道府県、漁業等に対して配慮することとして、以下の考え方に基づき行う。(以下、略。)

### (「配分の考え方」の見直しについて)(抜粋)

資源と漁獲の状況、各漁業の漁獲が親魚資源に与える影響の度合い、国際情勢、放流等の混獲回避技術の向上、遊漁管理の高度化の状況等を踏まえ、一定期間(又は我が国の増枠時)を目途に必要な見直しを行う。

令和7管理年度以降の「配分の考え方」(大臣管理区分及び都道府県(全体)への配分)

分布域や海洋環境の変化等の影響をある程度は反映していること、漁獲枠の有効利用の観点からも望ましいこと及び他のTAC資源で基本的に用いられていることから、基礎比率(令和3～5の管理年度ごとの漁獲実績のシェアの平均値)を用いて配分することを基本とし、小型魚・大型魚それぞれで以下のとおりとする。

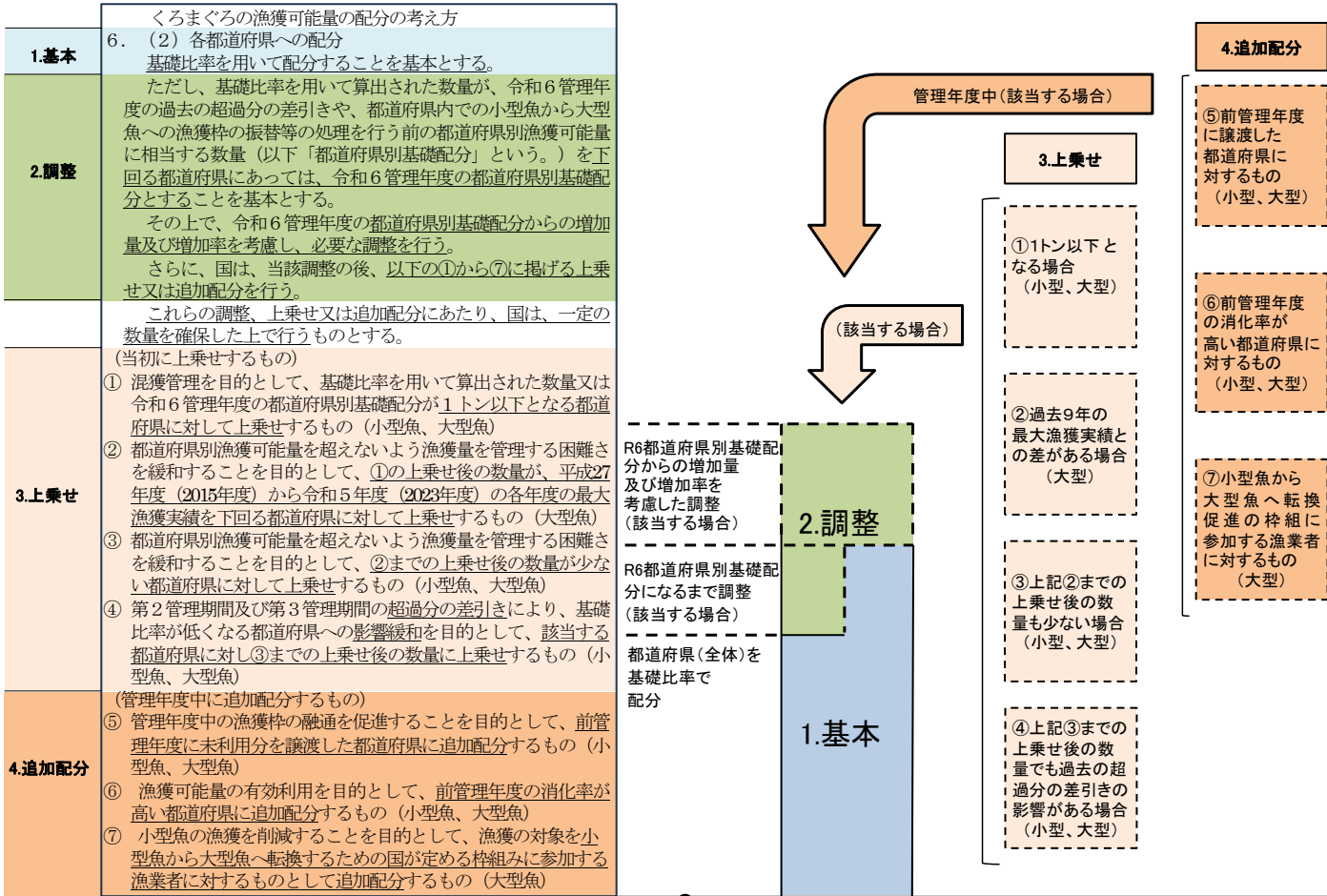
1 小型魚

基礎比率を用いて配分することを基本とする。ただし、当該数量が、令和6管理年度の基礎配分(過去の超過分の差引きや、同一の大臣管理区分又は都道府県の小型魚から大型魚への漁獲枠の振替等の処理を行う前の当初配分に相当する数量)を下回る場合は、令和6管理年度の基礎配分とすることを基本とした上で必要な調整を行う。

2 大型魚

- (1) 令和6年のWCPFCにおける我が国の漁獲上限相当分の数量(5,614トン)は、基礎比率を用いて配分することを基本とする。
- (2) 増枠相当分の数量(2,807トン)は、基礎比率によらず、都道府県に配慮して配分する。また、大臣管理区分間での配分については、令和6管理年度の基礎配分からの増加量及び増加率並びに漁獲割当てによる管理の状況を考慮し、必要な調整を行う。

令和7管理年度以降の「配分の考え方」(各都道府県への配分)



## 参考:これまでの経緯と今後の予定①

令和6年(2024年)

- ・6月4日 WCPFC北小委員会等に向けた太平洋クロマグロの資源状況等に関する説明会
- ・7月10日～16日 WCPFC北小委員会等 (小型魚10%、大型魚50%の増枠等勧告)
- ・8月 くろまぐろに関するブロック説明会  
<8/9札幌、8/21東京、8/23福岡、8/27新潟、8/29仙台>  
(北小委員会の結果説明、今後の配分に関する意見を聴取)
- ・9月24日 水産政策審議会資源管理分科会くろまぐろ部会①  
(ブロック説明会で出た主な意見の報告、配分における考慮事項の検討等)
- ・10月22日 同くろまぐろ部会② (「配分の考え方」審議)
- ・11月26日 同くろまぐろ部会③ (「配分の考え方」審議)
- ・11月28日～12月3日 WCPFC年次会合  
(WCPFC北小委員会の勧告の採択(増枠決定))
- ・12月9日 TAC(漁獲可能量)設定に関する意見交換会  
(「配分の考え方」を踏まえ算定した令和7管理年度の配分案を説明)
- ・12月11日 水産政策審議会第134回資源管理分科会  
「配分の考え方」及び配分案を審議・決定

## 参考:これまでの経緯と今後の予定②

令和7年(2025年)

- ・6月10日 WCPFC北小委員会等に向けた太平洋クロマグロの資源状況等に関する説明会
- ・7月9日～15日 WCPFC北小委員会等  
(太平洋クロマグロの新たな管理方式等について協議)
- ・11月26日 TAC(漁獲可能量)設定に関する意見交換会  
(令和8管理年度の配分案を説明)
- ・12月1日～5日 WCPFC年次会合(予定)  
(太平洋クロマグロについては関係国間で引き続き協議)
- ・12月8日 水産政策審議会第142回資源管理分科会(予定)  
(令和8管理年度の配分案を審議)